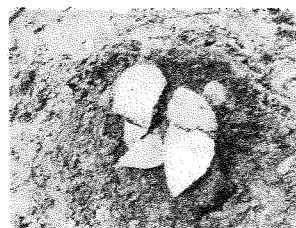


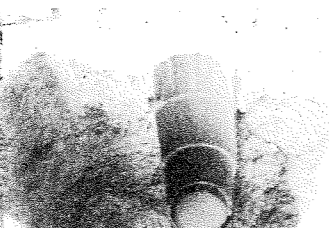
北町遺跡発掘調査ニュース

飯山市教育委員会は、昨年度に引き続き、平成 23 年度は 5 月 12 日から 9 月 13 日までの 4 ヶ月間、北町遺跡の調査を行いました。今年度は約 2,000 m²を調査し、江戸時代の井戸跡やごみ穴、弥生時代の竪穴住居跡が発見されました。江戸時代の井戸跡やごみ穴は一定の間隔でなっているのが確認できたため、今後江戸時代の城下町絵図で武家屋敷の地割の復元ができるかもしれません。

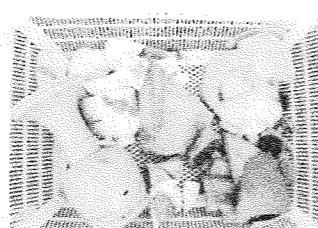
9 月で現場の作業は終了し、現在は遺跡で出土した土器や石器などの洗い、注記、実測、図面や写真の整理など、報告書をつくるための整理作業を行っています。



●古墳時代の土器



●木枠が重ねられた井戸跡



●たくさんの陶磁器



●ゴミ穴？の調査の様子

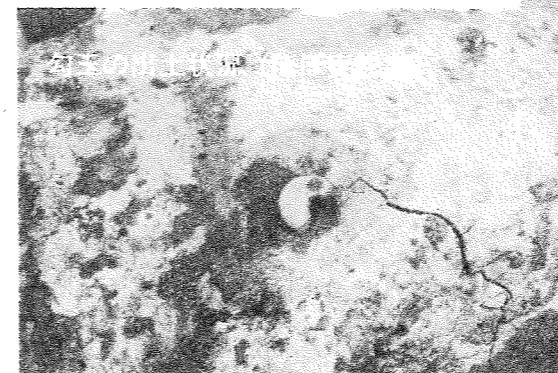


上空より北町遺跡 調査区を望む

校舎の後方に緑が生いける飯山城山公園、千曲川、さらに遠方に高社山が見えます。遺跡は飯山城の北西側、越後へと伸びる街道沿いにあり、城下町絵図上では武家屋敷がたちならぶ位置にあたります。

■弥生時代のアクセサリー 勾玉発見

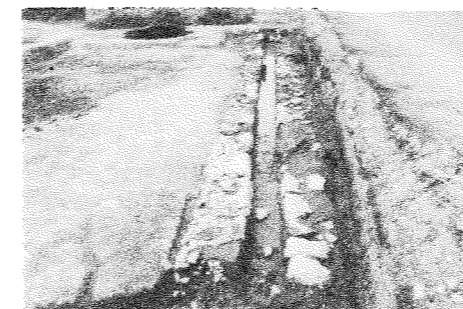
住居跡の近くの河川跡から、たくさんの弥生土器とともに小さな勾玉が出土しました。緑色凝灰岩という濃い緑の石を使った平らな玉で、ひもを通すための穴があげられていました。



■弥生時代の丸い住居跡

この地方の弥生時代の遺跡に見られるように、円形に地面を掘り込んだ住居跡が見つかりました。住居跡は調査区の外に伸びているため、全体の半分だけの調査となりましたが、深い柱穴やたくさんの土器の破片が確認されました。壁際に溝がめぐっており、溝の外にも小さな柱があったことから、拡張（増築）が行われたことがわかります。

■飯山北高校の歴史を物語るもの



現地説明会に来ていた近所の方が、「子供の頃に遊んだ記憶がある」と言っていた石組みの水路跡。グラウンドと小体育館を仕切る位置にありました。他にも、井戸の近くに「流れ尻」というよどみをためるための施設があった、などの貴重な話を聞き、遺跡と人々の生活がつながっていることを実感しました。

明るい茶色の地面に灰色の円形であらわれる柱跡が無数に並んでおり、いくつかの穴には杉の柱が残っていました。昔の図面によると、「雨中体操室」にあたる建物の基礎と思われます。



■おわりに ～遺跡の調査で何がわかるか～

今回の調査では、グラウンドの下から北町遺跡を特徴づけるたくさんの遺構・遺物が発見されました。こうした発見は遺跡調査でもっとも目に留まる場所ですが、土器を接合したり、図面を整理したりという今後の整理作業の中から、土器がどこから運ばれてきたか、武家屋敷がどんな並びだったのかなど、さらに発見が期待されます。

こうした成果を皆さんにお知らせする中で、人々が昔、どんな暮らしをしていたか、どんな風にさまざまな困難を乗り越え、飯山という地域を作っていったかなど、さまざまなことを考えるきっかけとしていただければ幸いです。

平成 23 年度

北町遺跡現地見学会

飯山高校建設事業に伴う平成 23 年度 北町遺跡発掘調査 現地見学会
 日 時：平成 23 年 5 月 25 日（土） ①午前 9 時 30 分～ ②午前 11 時～
 主 催：飯山市教育委員会 学習支援課

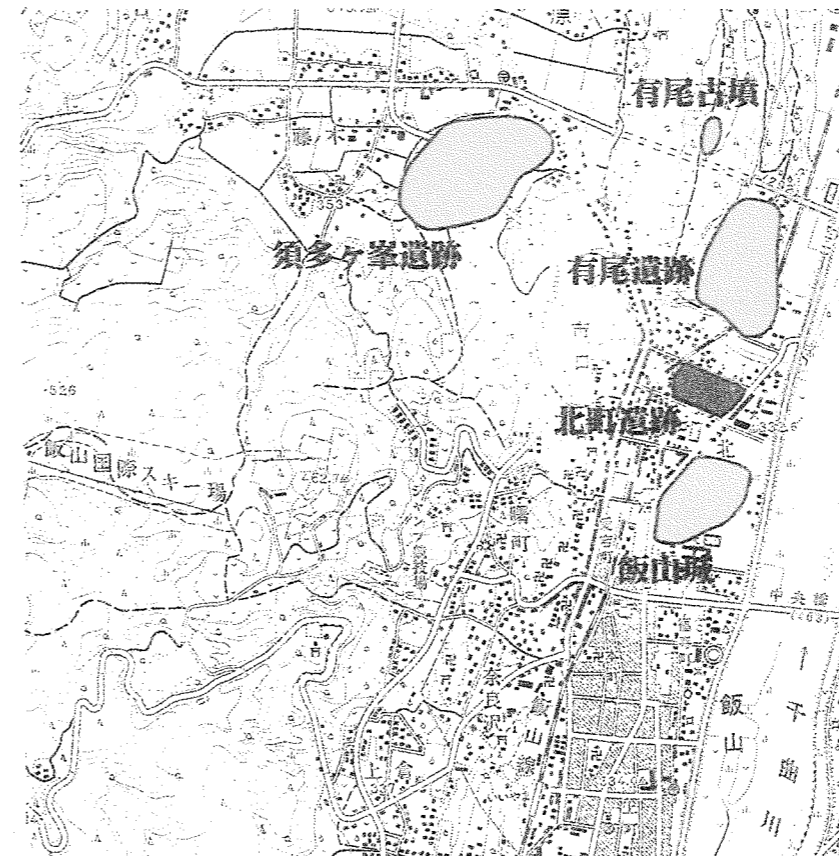
飯山市北町遺跡は、飯山市街地の北飯山北高等学校の敷地内にあり、千曲川と皿川によってつくられた自然堤防上にあたります。過去 2 回の調査で、弥生時代・古墳時代の住居跡や、中世・近世の土坑など、人々が活動していた痕跡が確認されています。

今回の調査では、今までの調査で発見されたものと同様の遺構・遺物のほか、井戸跡、土坑などが一定の間隔をもって並んでいる様子が確認でき、また他地域との交流関係を示すような土器が弥生時代の住居跡から出土されるなど、数多くの発見がありました。

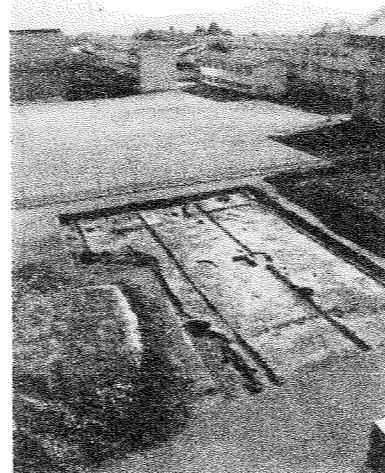
地中に長い間眠っていた北町遺跡の姿を現地でご確認いただき、先人が活動していた飯山の古代を想像しながら、遺構や遺物に接していただければ幸いです。



■グラウンドの地下 1 m の深さから見つかった弥生時代の^{たてあな}竪穴住居跡。弥生土器の破片が散らばる下には、柱穴や貯蔵穴と思われるたくさんの穴があります。

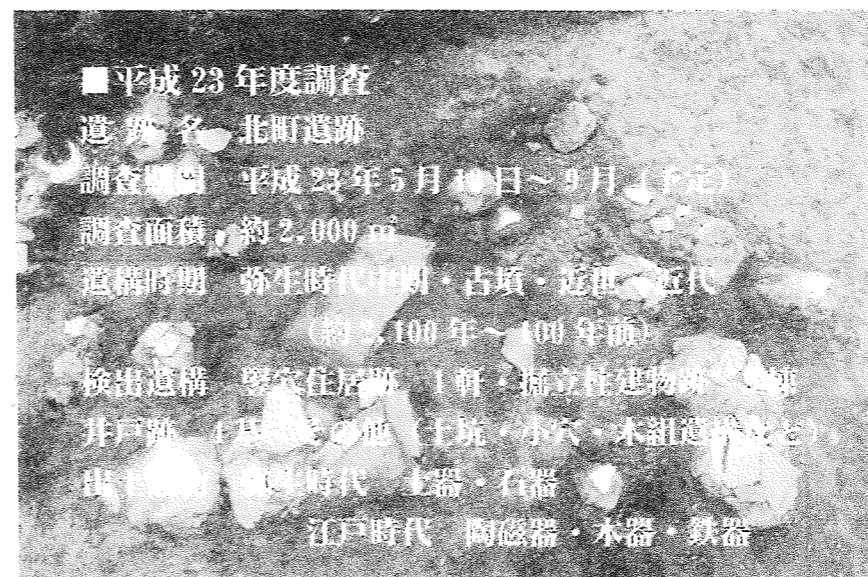


北町遺跡周辺の主な遺跡



昨年度の発掘調査

平成 22 年度の調査では、江戸時代の土坑、井戸跡、時期不明の掘立柱建物跡などが見つかりました。遺跡から南方を望むと、飯山城、千曲川を経て遠くに高社山が見わたせます。



■平成 23 年度調査
 遺 跡 名 北町遺跡
 調査期間 平成 23 年 5 月 10 日～9 月（予定）
 調査面積 約 2,000 m²
 遺構時期 弥生時代中期・古墳・近世・近代
 （約 2,100 年～100 年前）
 検出遺構 竪穴住居跡 1 軒・掘立柱建物跡 1 軒
 井戸跡 1 基・その他（土坑・小穴・木組遺構など）
 出土品 弥生時代 土器・石器
 江戸時代 陶磁器・木器・鉄器

西 暦	時 代	主なできごと	北町
前 3500	縄文時代	有尾遺跡に集落が形成される	
前 300	弥生時代	日本列島へ水稲耕作が伝わる 飯山盆地で水稲耕作が本格的にはじまる 長峰丘陵に大集落が形成される 北町遺跡に集落が形成される	
300	古墳時代	須多ヶ峯遺跡で鉄剣・ヒスイ勾玉が発見される 有尾に古墳が造られる（1号墳は前方後方墳）	住居跡・掘立柱建物跡
710	奈良時代	飯山盆地で遺跡が確認されなくなる	
794	平安時代	北原遺跡で ^{かじ} 鍛冶遺構が見つかる	空白期間
1192	鎌倉時代		
	戦国時代	飯山城が築かれる	井戸跡・土坑・水堀
1603	江戸時代	飯山城下町が形成される	
	明治	明治 39 年 飯山中学校設立	
	大正		
	昭和	昭和 23 年 飯山北高等学校と改称	

飯山市教育委員会 学習支援課
 〒389-2253 飯山市飯山 1436 番地の 1
 （飯山市公民館内）
 TEL0269-62-3342 FAX0269-62-5940

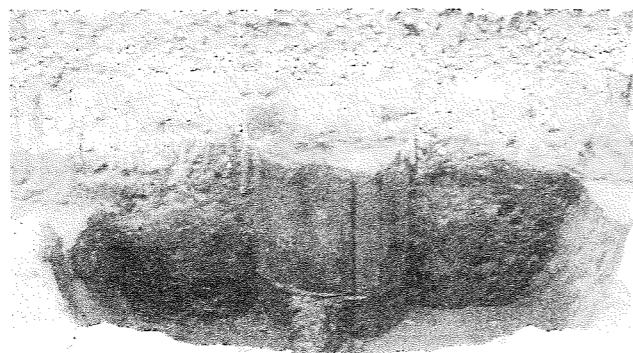
北町遺跡発掘調査で わかったこと

平成22年、23年と続いた発掘調査では、弥生時代の住居跡、近世の井戸跡、土坑などが発見されました。

北町遺跡は江戸時代の城下町絵図によると、飯山城の北門から番所までの道のりにあり、越後への道の要衝にありました。武家屋敷に関連する遺構や遺物が出るのが予想されましたが、今回の調査では、グラウンドをつくる際に江戸時代の遺構の多くは上部が削られ、比較的深い井戸やゴミ穴などが発見されたと考えられます。屋敷（建物）は見つかりませんでした。井戸や土坑（ゴミ穴）が一定の間隔を持って東西を軸に並んでおり、町割の復元などに期待がもたれます。

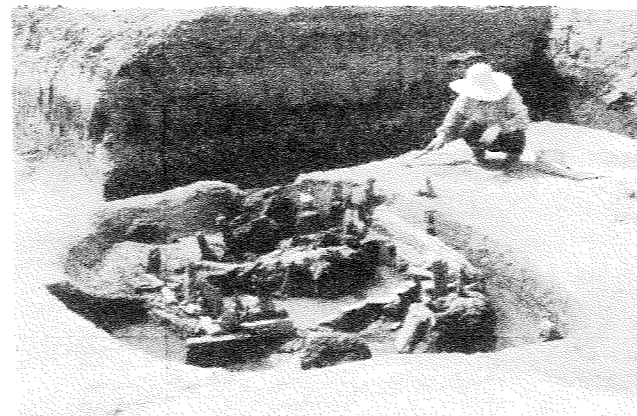
今年度の調査で注目すべきは弥生時代の住居跡です。壁ぎわを溝がめぐる円形の住居跡で、東側の拡張部には細い柱をめぐらせています。

円形の住居跡は東側の体育館建設時の調査でも確認されており、弥生時代の水田開発を基盤にした小さな集落がここから東側に広がっていると考えられます。他にも掘立柱建物跡、溝、土坑などが調査区の広い範囲から発見されており、今後の調査や整理作業で、北町遺跡の内容がより具体的に明らかになることでしょう。



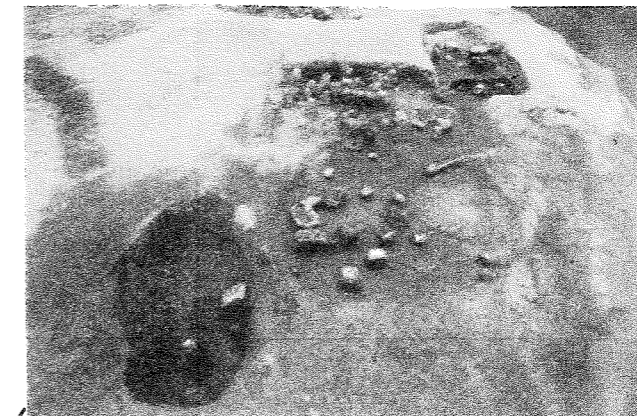
■木枠を重ねた井戸跡①

鋭利な刃物で丁寧に削られた幅20cm、長さ60cmの板を円形に組み合わせ、タガで締めたものを何段にも重ねています。調査中も常に水がわいていました。



■四角い枠を杭で固定

板材で四角の枠をつくり、杭で固定しています。用途は不明ですが、学校の運動場に関連するものと思われる。



■近世～近代のゴミ穴？土坑から陶磁器が多出

楕円形の浅い穴の底に木皮の腐食層があり、その上には陶磁器のかけらや鉄・ガラスなどの製品が散らばっていました。

平成22年度調査区



■溝の中から弥生土器が出土

不規則な浅い溝から弥生土器が細かな破片となって出土しました。



■住居跡の壁ぎわにめぐる柱痕
周溝の外側から床面に刺さった細い丸木が発見され、約1mの間隔をあけて並んでいることから、柱穴であることがわかります。



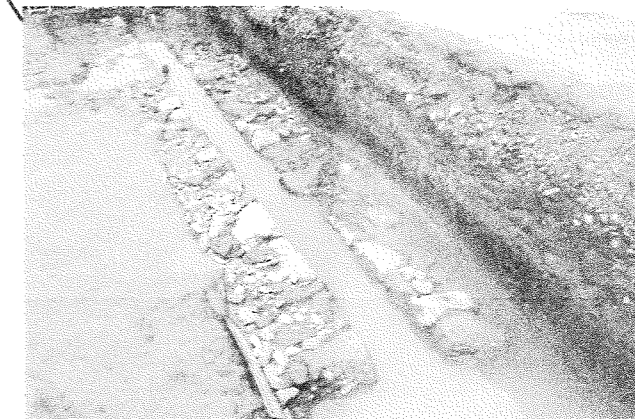
■弥生時代中期の堅穴住居跡

半径7mあまりの円形の掘り込みから弥生時代中期の土器片がたくさん見つかりました。土器の特徴から、今から約2,100年前の粟秣期の住居跡と考えられます。壁の周囲にめぐる細い柱が一部で残っており、壁ぎわの周溝との関係から建て替えを行っていると考えられます。南側は調査区外にあり、今回は北半分のみを調査しました。



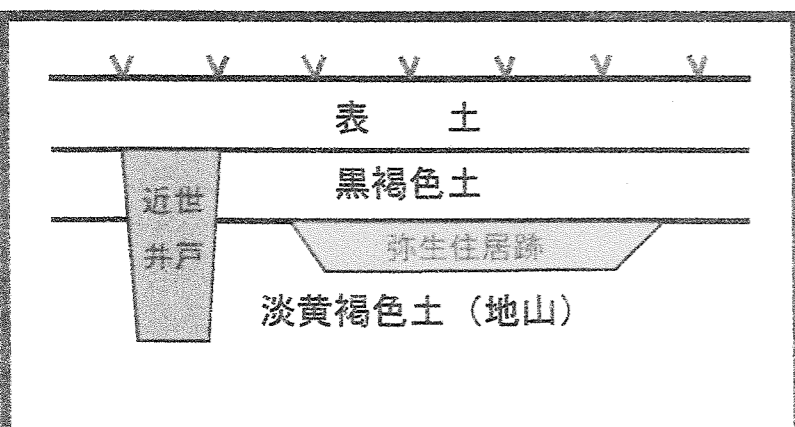
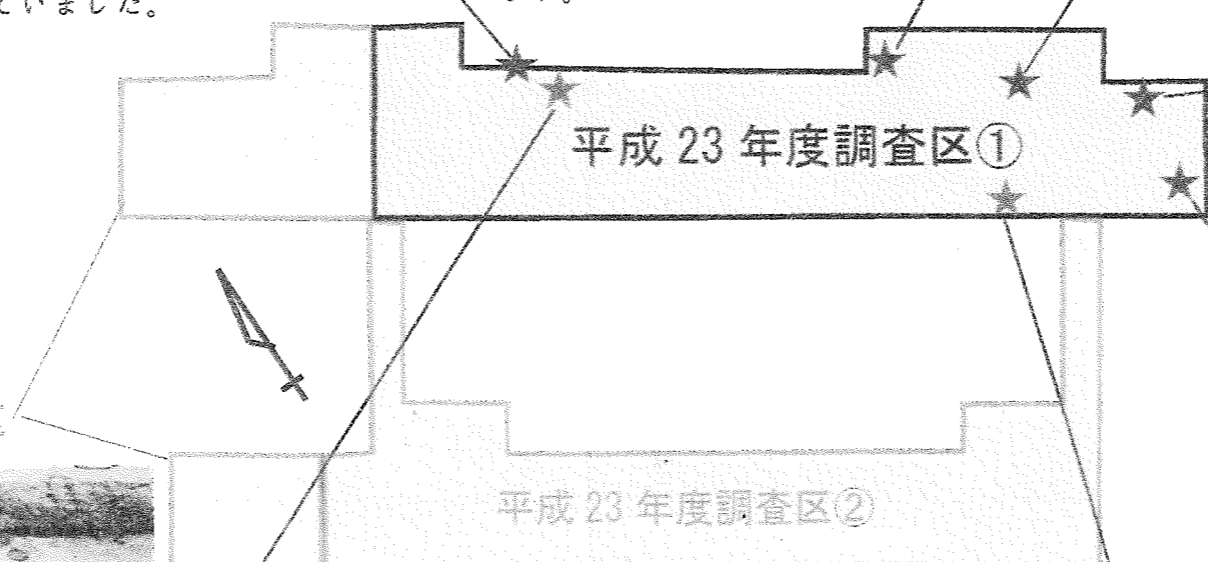
■木枠を重ねた井戸跡②

大きな掘り込みの中央に円形の木枠を二段以上重ねて設置し、下部は石で固定しています。



■大小の石を組みあわせた水路

北壁の近くからコの字型の水路らしきものが発見されました。大きな角礫の平坦面を内側にそろえ、小さな円礫間を埋めています。同じ層で出土した杭や鉄の様子から、飯山中学校時代のものと考えられます。



★ 弥生時代中期
★ 近世(江戸)・近代
★ 飯山中学校時代